



---

## 幹事会・連携取組等の実績について

---

令和 7 年 1 月 28 日  
九州地方環境事務所 地域脱炭素創生室



2021年12月22日設置

## 九州・沖縄地域脱炭素推進会議

- 沖縄総合事務局長
- 九州総合通信局長
- 沖縄総合通信事務所長
- 九州財務局長
- 福岡財務支局長
- 九州農政局長
- 九州森林管理局長
- 九州経済産業局長
- 九州地方整備局長
- 九州運輸局長
- 九州地方環境事務所長



推進会議の様子(2021年12月22日)



### <検討・協議・実施事項>

- (1) 各府省の関連予算等の支援ツールや支援実績等に係る情報共有及び地域への情報発信に関する事
- (2) 脱炭素先行地域をはじめとした地域脱炭素の案件形成や複合的・包括的支援に関する事
- (3) その他、推進会議の運営を含む必要な事項に関する事

### 幹事会 (課長級)

推進会議で決定された方針に基づき、  
実務的な連携内容・方法を検討・協議・実施

<開催実績> 第1回 (2021年12月22日)、第2回 (2023年1月18日)  
第3回 (2024年1月 ※書面開催)  
幹事会 (2022年以降、年に2～3回開催)

## ■ 第1回推進会議（2021.12.22）

- 縦割りを排して水平連携するため、九州・沖縄地域の脱炭素関係省庁の地方支分部局において局長級会議を設置。
- 推進会議で決定された方針に基づき、課長級の幹事会で実務的な連携内容・方法を検討・協議・実施。
- 事務局及び相談窓口を地方環境事務所が担い、連携体制を確保。

## ■ 第2回推進会議（2023.1.18）

- 「今後の取組方針」を承認。当該方針に基づく具体的取組の実施を幹事会に委任。

## ■ 第3回推進会議（2024.2.9）

- 今後は、脱炭素先行地域の創出に加え、既選定の脱炭素先行地域における取組実践、脱炭素先行地域以外での脱炭素施策の横展開等を支援していくことが重要であることから、以下のとおり「今後の取組方針」の変更を承認。

### 「今後の取組方針」の改定

- ① 地域脱炭素の案件形成及び取組実践、地域内への横展開における支分部局連携の強化
- ② 支分部局間の個別連携の強化
- ③ 情報共有・発信機能の強化

# 令和6年度第1回幹事会（九州ブロック）



- 2024年6月、令和6年度第1回幹事会を開催。当年度の支分部局連携取組案に対する協議を実施。
- また、地域脱炭素の最近の動向や各支分部局からの情報提供を行い、地域脱炭素の推進に向けた意見交換を実施。

開催日程	令和6年6月4日（火）13：30～15：00
開催場所	福岡合同庁舎6階 九州経済産業局 第二・第三会議室
開催方式	対面およびオンライン(Cisco Webex Meetings)とのハイブリッド開催
議事	<p><b>（1）地域脱炭素の最近の動向について</b> 地域脱炭素をめぐる動き、脱炭素先行地域第5回選定、脱炭素経営の推進に向けた取組について説明 【主な質疑】脱炭素先行地域の「空白県」である佐賀県、大分県の状況について</p> <p><b>（2）令和6年度の連携取組の企画案について</b> 九州地方環境事務所から、令和6年度の連携取組の企画案について説明 【主な質疑】マッチングイベントのねらいや、企業からの相談状況について 合同視察会での視察先や意見交換のテーマについて</p> <p><b>（3）情報提供・意見交換</b> 九州財務局、九州農政局、九州経済産業局及び九州地方整備局より各省庁の取組について説明 【主な質疑】省エネ・再エネの効果の「見える化」について</p>

# 地域脱炭素の実現に向けた地方公共団体と企業とのマッチングイベント



- 2024年11月、地方公共団体・企業等の課題とソリューションを結びつけるため、**地域脱炭素の実現に向けた地方公共団体と企業とのマッチングイベント**を開催。
- **九州経済連合会、九州経済産業局/沖縄総合事務局との共催**で、令和4年度から毎年九州、沖縄で各1回開催しており、今年度で3年目。

開催日程 場所	・佐賀：令和6年11月15日（金）12:30～16:00 ・沖縄：令和6年11月18日（月）13:00～17:00
開催場所	・佐賀：サロンパスアリーナ サブアリーナ（鳥栖市） ・沖縄：沖縄産業支援センター（那覇市）
参加者数	・佐賀：10自治体・30企業・2省庁（九州農政局、九州経済産業局）がブース出展、参加者304名 ・沖縄：7自治体・21企業がブース出展、参加者174名
参加費	無料（交通費等は来場者負担）
その他	・地域脱炭素の基盤構築やビジネスマッチングに関する情報提供を行うため、パネルディスカッション「 <b>地域脱炭素の実現に向け、地方公共団体や企業等に求められていることとは？</b> 」を実施。地域金融機関と地元自治体・企業の連携事例「鹿島モデル」を取り上げ、100名程度が参加。（佐賀会場のみ）  ・参加者アンケートでは、参加事業者から「 <b>自治体だけではなく、企業間での情報交換もでき有益なイベントだった</b> 」や「 <b>多くの企業との接点の機会が得られた</b> 」との意見が複数あり。



開会式（九州経済連合会 田中常務挨拶）



マッチングイベント（自治体ブース）



パネルディスカッション



出展ブース導線

# 【参考】沖縄会場：イベントの様子



開会式（沖縄奄美自然環境事務所北橋所長）



自治体ブース



企業ブース

### ○テーマ

「地域脱炭素の実現に向け、地方公共団体や企業に求められていることは？」

### ○パネリスト

鹿島市役所 政策総務部 ゼロカーボン推進室室長補佐 江島 美央 氏  
株式会社佐賀銀行 営業統括本部 地域支援部長 熊本 輝之 氏  
環境省 地域循環共生圏推進室長／民間活動支援室長 石川 拓哉 氏

### ○パネルディスカッション概要

傍聴者が各ステークホルダーの求めるものを理解し、それにマッチした提案や準備を行うことで、協力団体とのマッチング精度の向上および地域脱炭素の加速化していくことをねらい、佐賀銀行や鹿島市における、これまでの脱炭素の取組みの背景を説明いただくとともに、実際に**両者の連携事例である「鹿島モデル」の取り組み経緯や双方や企業等に求めることをディスカッション**いただいた。

### ○テーマに対するパネリストの意見（要点）

- ・江島氏 「外に出て話を聞くことで、課題が集まり、行政だけでは事業ができなくても、『**餅は餅屋**』で**企業等に相談して実行をしていくことがコツ**。」
- ・熊本氏 「まずは気軽に相談いただきたい。**金融機関が持つ情報やネットワーク、信頼関係などをぜひ活用いただきたい**。」
- ・石川氏 「環境省としては、**人と人をつなぐことを意識することが重要**。企業にも積極的に声をかけて、仲間になっていただき、皆で取り組んでいけるように整えていくのが大きな役割」

九州地方環境事務所の主催により、九州・沖縄各支分部局との**合同視察会**を実施。

## 取組概要

### ○目的

脱炭素に関する具体的な事例も視察しながら地方支分部局間での情報共有を図り、意欲的な取組を行う地方公共団体等への省庁横断的な支援に繋げることを目的として開催する

### ○開催日

令和6年12月13日（金）

### ○参加者

各地方支分部局若手職員を中心とした計16名

### ○参加支分部局

沖縄総合事務局、九州総合通信局、九州財務局、福岡財務支局、九州農政局、九州森林管理局、九州経済産業局、九州地方整備局

### ○視察先

次ページ参照



## 佐賀市清掃工場



- ・ごみ焼却施設における日本初CCUプラント
- ・回収したCO<sub>2</sub>は、民間企業の植物工場や藻類培養に活用

## 花王(株) 植物工場「SMART GARDEN」



- ・佐賀市の清掃工場から出るCO<sub>2</sub>をCCUにより回収、精製し、再利用
- ・CO<sub>2</sub>で植物の光合成を促進

## 小城市庁舎



- ・防災活動拠点である市庁舎の電力を再生可能エネルギーで自給自足

## (株)丸信



- シール・ラベル、パッケージ等の印刷工場を含む本社事業所はを二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量が実質ゼロとなる仕組みで運用

## 佐賀市清掃工場



## 花王(株) 植物工場「SMART GARDEN」



## 小城市様との意見交換



## (株)丸信様との意見交換



- ▶ アンケート回答者のうち、**全員が「満足」「次回以降も参加したい」**で回答。
- ▶ 開催目的である、『九州内での意欲的な取組を行う自治体や企業を知る』ことや『地方支分部局間での情報共有』の場とすることができた。

## 満足度の理由

- これまで脱炭素に関して内容は知っているけど実態がどうなっているのか不透明な部分がありましたが、実際に見聞きすることで、脱炭素に対してイメージがしやすくなりました。
- 脱炭素の取組は、特に中小企業では嫌われる傾向にあるが、脱炭素に貢献したいと思わせる仕掛けについてもいくつか学ぶことができた。
- 九州内にこれほど優良な事例があるとは存じ上げず、自分自身の知見を広げられたから。
- 脱炭素に資する資源エネルギーについて、供給側と需要側の両面で知ることができたため。
- 官民双方の取組事例を生で知ることができたため。
- 視察会の雰囲気もよく、どなたでも発言してよい空気間で委縮することなく参加できた。
- 他省庁の方を知るきっかけにもなり、バスでもお互いのお仕事や考え方について話すことができて刺激的でした。